

# 緩和ケア

No.1

2008/11/1 鶴岡協立病院

庄内プロジェクト推進委員会 発行



皆さんは、「緩和ケア」についてご存知でしょうか？

日本人の死因の第一位ががんになって久しくなりますが、現在では日本人の1/2~1/3ががんになり、日本人の1/3ががんで亡くなる時代になっています。がんなどの生命をおびやかす病気になった患者・家族の方に対して、さまざまなつらさを和らげ、その人らしく生きることを援助する治療、それが「緩和ケア」です。つらさの中には痛みなどの身体の症状のほかに、気持ちが落ち込んだり、不安になったりする心のつらさや社会・家族との関係や生活費の心配などからくるつらさ、さらには生きざまや死にざまなどを考えることからくるつらさなどの多くのものが含まれます。ですから、「緩和ケア」は身体の症状がないようながんの早い時期から必要と考えられていますし、進行して治ることが難しい状態であればなおさらです。

皆さんは、ご自身もしくはご家族のどなたかが進行がんになったとしたらどうされますか？もちろん進行がんでもさまざまな治療を組み合わせることで治るがんもありますが、残念ながら、治らないがんもまだまだ多く残っています。その場合にできるだけ住みなれた我が家で過ごしたい、もしくは過ごさせたいと思われる方も多いかもしれません。



庄内医療生協では、以前よりたとえ治癒が見込めないがんになっても、その方の希望に寄り添い、その人らしく残された時間を過ごせるようにお手伝いをしてきましたが、この度、鶴岡・三川地域全体で、鶴岡市立庄内病院を中心に、全ての医療機関が参加して、

3年計画で緩和ケアを地域に広げる取り組みを行うことになりました。厚生労働省は

全国の 4 地域(鶴岡・三川地域、柏・我孫子・流山地域、浜松地域、長崎地域)を対象に「緩和ケア普及のための地域プロジェクト(通称:OPTIM(オプティム))」という地域での研究事業を行うことを決め、すでに始まっています。

その中で鶴岡・三川地域での取り組みを「庄内プロジェクト」と呼んでいます。

庄内医療生協もその中で大事な役割を果たすべく参加しています。庄内プロジェクトに関連して、庄内医療生協の病院、診療所などには、ところどころにポスターや冊子が置かれています。ぜひご覧になってください。



↑緩和ケアを知る 100 冊の書棚とリスト表紙

また、鶴岡協立病院の正面玄関を入ってすぐ右手には、絵本や手記を含め、「緩和ケア」に関連したさまざまな本が並んでいます。「緩和ケアを知る100冊」ということで貸し出しをしております。じかにご覧になるもよし、100冊について書かれたリストがあり

りますので、それを見て選ばれるのもよし、ぜひ多くの皆さまにご利用いただき、「緩和ケア」について理解を深めていただければ幸いです。

はじめにも書きましたとおり、がんは珍しい病気ではありません。今後ご自身のためにも、ご家族のためにも、ご友人のためにもなるかもしれません。

もし、ご不明な点がございましたら組織部の職員、病院・診療所の職員に問い合わせただけければと思いますし、さらにはこの「緩和ケア普及のための地域プロジェクト(OPTIM)」のホームページをご覧いただければと思います。



← <http://www.gankanwa.jp/>

「緩和ケア普及のための地域プロジェクト(OPTIM)」トップ画面